

一般社団法人日本クリエイティブ・アーツセラピー学会主催

JCATA 第4回学術大会



距離×つながり

～CATが織りなすコンステレーション～

夜空の星1つ1つの距離は果てなく離れ、単体でいるのに、「これは〇〇座」と聞いたとたんに、私たちは1つの星座というつながった形としてそれぞれの星を捉えます。同じように、心の中で起こっている1つ1つのことと外の現実とがある瞬間にシンクロして星座のように意味をもった形を成して立ち現れてくることがあります。世の中の光の部分も影の部分も、表に出ているものも陰に隠れて見えないものも、実はすべてがつながっているのが心の世界ではないでしょうか。

いま世界は、ウイルスとの戦いという共通の課題に向かって動いています。いま私たちの臨床や研修や日々の活動も大きな影響を受けています。最近、社会的距離という言葉が身体的距離という言葉に置き換えられ、3密を避けることを余儀なくされる中、オンラインによる活動が中心にならざるをえない現状があります。ただ、本来人間の中には、内在化されている対象関係、人との間で育まれた身体の記憶、音やイメージの断片、感情の流れなどが生き生きと脈打っています。逆にこの大きな変革の渦の中で、個人や社会の無意識に沈殿していた何かが攪拌され、身体的、物理的距離を超えて、つながっていける可能性も感じます。本大会ではCATの創造的な営みを通して、皆さまと共に、潜んでいる何かを探求、共有し、新しいつながり方を模索、発見する場にしたいと思っております。

日時:2020年11月1日(日)9:30~16:30

開催形式:オンライン(Zoom)

参加費:会員 4,000 円、非会員 6,000 円

定員:80名

主催:日本クリエイティブ・アーツセラピー学会 <http://www.jcata.org/>

問い合わせ:第4回学術大会運営委員会 conference2020@jcata.org

【お申し込み方法】

お申し込み受付期間:9月23日(水)~10月25日(日)

参加ご希望の方は、[申し込みフォーム](#)にご記入のうえ、送信してください。



[申し込みフォーム](#)

- * 申し込まれた方に、折り返し参加費の振り込み案内をお送りいたします。参加費の払い込みをもって申込受付が完了します。受付期間を過ぎますとご参加できません。
- * 受付完了の方にのみ、事前にZoom大会へのご招待情報をお送りいたします。
- * 次ページにZoom開催による守秘義務や注意事項について記してございます。申込時にご確認、ご同意をお願いいたします。
- * 上記期間に関わらず、大会に関するご質問は運営委員会へメールでお問い合わせください。

【オンライン大会参加への注意事項及びご同意へのお願い】

➤ Zoom の使用について

- ・ 本大会は Zoom を使用します。参加するためには、事前にご自身のパソコンやタブレットに Zoom の最新アプリをダウンロードしておく必要があります。Zoom の接続ができないと大会に参加できませんので、必ずご自身で事前準備をお願いいたします。
- ・ 申し込み完了した方に Zoom への招待情報、参加手順、参加時の申し合わせの詳細をお送りします。
- ・ セキュリティ上の本人確認のため、必ず参加者ご本人から、参加申し込み手続きをお願いいたします。
- ・ Zoom 情報を他者への転送を禁止いたします。
- ・ インターネット上のリスクを完全に回避することはできません。あらかじめご了承ください。

➤ 守秘義務遵守、注意事項について

- ・ 発表内容には症例や事例資料が含まれますので、守秘義務の遵守をお願いいたします。
- ・ 対面での学術大会同様、本オンライン大会で得た情報を関係者の同意無しに公表したり、SNSで拡散したりすることを禁止いたします。
- ・ 本大会中の全てにおいて、録音・録画・撮影などを用いてのデータ保存は禁止いたします。
- ・ 臨床家・研究者・教育者としての倫理に基づいて、発表者や他者のプライバシーへの配慮をお願いいたします。

➤ ご同意のお願い

- ・ web大会の安全な運営のために、上記につきましてご理解・ご協力をお願いいたします。申し込みフォームにご同意の欄がありますので、お申し込みの際にはチェックのうえ、ご同意をお願いいたします。

【大会スケジュール】

9:00～	Zoom入室(受付)開始
9:15～ 9:30	オープニング、注意事項など
9:30～10:30	基調講演「私たちはつながりたいのか？何と？—ユング心理学の視点から」 林 公輔さん
10:30～11:00	大会企画A(ドラマ)「オンラインでのドラマセラピー：可能性・課題・今後の展望」 槐 那おみさん
11:00～12:00	大会企画B(ミュージック)「地域とともに歩むコミュニティに根ざす音楽療法」 大竹孔三さん
12:00～13:00	昼休み&リラックスタイム ミュージック 高田由利子さん /ムーブメント 高井彩加さん
13:00～14:00	大会企画C(倫理;ダンス/ムーブメント)「セラピストの臨床倫理～その葛藤と課題」 鍛冶美幸さん
14:00～15:00	大会企画D(アート)「悲しみに寄り添うアート～グリーンサポートとアートセラピー～」 倉石聡子さん
15:00～16:30	全体会(コロナ禍に浮かぶ上がる影と光:social distancing/on line) <ul style="list-style-type: none">・ ドラマ:「"コロナ"と共に創るオンライン・ドラマ」尾上明代さん・ アート:「えっ?! 来週から Telehealth?!」辻ロビンさん・ ダンス:「コロナ禍における Self-Awareness」古川彩香さん・ 音楽:「"初の試み"遠隔音楽療法セッションにおける発見と課題、そして今後の展望」堀川千絵さん

【午前】

基調講演：「私たちはつながりたいのか？何と？—ユング心理学の視点から」

9:30～

新型コロナウイルスの出現によって、私たちを取り巻く状況は様変わりしました。人に会うことが当たり前ではなくなった今、オンライン上でのつながりが模索されています。しかし、私たちは「何と」「なぜ」つながりたいのでしょうか。人だけでなく、自分の心や体とのそれについても考える必要があると思います。そこにはきっと、つながりたくない「何か」も蠢いているはずで、発表では、ユング心理学における「個性化の過程」や「コンステレーション」などの視点から、「つながること」の深みについて考察したいと思います。



林 公輔：学習院大学文学部心理学科准教授。福井医科大学（現、福井大学）医学部医学科卒業。慶應義塾大学医学部精神神経科、特定医療法人群馬会群馬病院等を経て、International School of Analytical Psychology Zurichに留学。2018年より現職。

大会企画A(ドラマセラピー) 10:30～

「オンラインでのドラマセラピー：可能性・課題・今後の展望」

今年の5月からスタートした、オンライン形式でのドラマセラピーへの取り組みについて発表させていただきます。通常の対面式のドラマセラピーに比べて、どんな違いがあり、どんな可能性があるのか？また、課題としてあげられることは何か？今後の展望などについて、実際の現場の動画や写真などを交えながらお伝えいたします。



槐 那おみ：カウンセリングルーム Joy Lab 代表。北米ドラマセラピー学会所属ドラマセラピスト。Japan Drama Therapy Institute メンバー。ニューヨーク大学大学院修士課程卒業 MA。

大会企画B(ミュージックセラピー) 11:00～

「地域とともに歩むコミュニティに根ざす音楽療法」

コミュニティで行う音楽療法について、① 臨床にたどり着くまでに必要なこと（現場を開拓する・資金を集める）② 実際のセッションで求められるスキル③ 今後の展開についての3点に的を絞ってハワイや日本での臨床経験なども交えてシェアさせていただきます。また、新潟県音楽療法士協会では新潟市の助成を受けて2016年度から3年間「社会課題を音楽を使って解決する可能性についての調査研究」を行いました。その内容も含めて、音楽の有用性やコミュニティにもたらす効果など、これからのコミュニティ音楽療法が地域で果たす役割について考えてみたいと思います。



大竹孔三：ニューヨーク大学大学院音楽療法コース卒業、同大学付属ノードフ・ロビンズ音楽療法センターにてディプロマコース修了。ハワイのNPO法人でコミュニティ音楽療法に携わり、帰国後は同団体の日本支部を設立。米国音楽療法協会認定音楽療法士、新潟県音楽療法士協会副会長。
photo© Sayuki INOUE

♪～昼休み&リラックスタイム 12:00～13:00～♪

お昼休みのひと時、音楽とダンスでリラックス&リフレッシュタイムをご用意しています。午前中のワーク終了後にほっとひと息、そして昼食後から午後のワークに入る前にゆったり、心身の消化を助けるために、こころとからだを解きほぐしてみませんか？ ご自分のいらっしゃるその場所から、ちょっとからだを伸ばせるスペースから、どうぞお気軽にご参加ください。12:15～12:45まではオフタイムとなります。

♪12:00～12:15 ミュージックサロン by 高田由利子さん（ミュージックセラピスト）

トーンチャイムの響きに耳を傾けながら、こころと身体を緩ませましょう！

♪12:45～13:00 ダンスサロン by 高井彩加さん（ダンス/ムーブメント・サイコセラピスト）

ゆったりしたストレッチでリフレッシュし、午後に向けて心身を緩やかに目覚めさせましょう。

【午後】

大会企画C(倫理；ダンス／ムーブメント・セラピー) 13:00～

「セラピストの臨床倫理～その葛藤と課題」

対人援助の専門家には、職業倫理を念頭に置きながら実践や研究を進めていくことが義務づけられており、関連領域の職能団体では倫理要綱が定められ、守るべき規範や責務、必要な資質が示されている。ただし、臨床場面における倫理とは定められたルールを画一的に守るということ以上に、深い意味を持つものである。そこには、援助の専門家として真に被援助者を守り、その役に立つためにどうあるべきかという問いが含まれている。本講演は、こうした臨床倫理をめぐる課題について、講義と実技を交え参加者とともに考える機会としたい。



鍛冶美幸：文教大学人間科学部准教授。臨床心理士・公認心理師、博士（臨床心理学、教育学）、BC-DMT（アメリカ・ダンス・セラピー協会認定指導者）、日本ダンス・セラピー協会認定ダンスセラピスト。長年ダンス・セラピーの実践とセラピスト・トレーニングに携わっている。

大会企画D(アートセラピー) 14:00～

「悲しみに寄り添うアート～グリーフサポートとアートセラピー～」

大切な人やものを失くしたとき、私たちは深い悲しみや苦悩、怒り、自責など様々な反応(グリーフ)を抱えます。グリーフは人それぞれ異なるものであり、また時として言葉では表現しづらいものでもあります。当事者が自分の中のグリーフに触れ、向き合う時、また安心できる他者とのつながりを見出す時、アートはどのように役立つでしょうか。コロナ禍が続く現在、多くの命が犠牲になり、仕事や居場所を失くし、人との繋がりやこれまでの日常が失われています。グリーフに寄り添い、支えることについて、皆さまと考えていきたいと思ひます。



倉石聡子：公認心理師、臨床心理士。Notre Dame De Namur 大学マレッジ・アンド・ファミリーセラピー/アートセラピー修士。スクールカウンセラーとして勤務する他、個人/グループセッション、研修、講演等を行う。アップコンセプト・スタジオ代表、JIPATT 講師/スーパーバイザー、日本女子大学非常勤講師。

全体会 15:00～『コロナ禍に浮かぶ上がる影と光：social distancing/on line』

「初の試み」遠隔音楽療法セッションにおける発見と課題、そして今後の展望

子ども達は突然の長期休校で精神的に不安と喪失を経験し、演者の音楽療法スタジオも一時閉鎖となった。Zoom を用い、利用者の負担を最小限に抑えた環境で音楽療法士は個人セッションを、どのように行えるのか。クライアント側・セラピスト側からの画像を比較し、臨床における課題や発見、可能性を分析、考察する。(対象クライアントは、課題を抱える通常学級に通う児童とする。)又、自粛緩和後の対面セッション再開における環境や音楽的アプローチの変化などにも触れる。



堀川千絵：ニューヨーク大学大学院音楽療法コース修士課程修了。フェリス学院大学音楽芸術学科・同大学院非常勤講師。都内に「オーシャンサウンド音楽療法スタジオ」を個人開業。JIPATT 在籍中。日本音楽療法学会認定音楽療法士。

「コロナ」と共に創るオンライン・ドラマ

対面で実施する通常のドラマセラピー・セッションは、人と人が現実的な出会いと交流ができる点で大切な場であることは間違いない。しかし、ウィズコロナの時代においては、社会の要請に応じて新しい方法を創り出していくことも必要不可欠である。今回は、今年4月からのオンライン実践から見えてきた、対面・オンライン、それぞれの特長と、「コロナ」を扱ったドラマの報告をする。緊急事態宣言直後に不安を抱いていたクライアントたちが、架空の物語を演じる中で、プレイフルな視点と不安の軽減を獲得できたと思われる事例を発表する。



尾上明代：日本にドラマセラピーを紹介して以来、その普及のため20年以上にわたり実践・教育・研究に従事する。立命館大学大学院人間科学研究科教授。東京大学教育学部非常勤講師。北米ドラマセラピー学会公認トレーナー。著書：心ひらくドラマセラピー(河出書房新社)他

コロナ禍における Self-Awareness

コロナ禍では非対面方式(オンライン)による他者交流が増えており、大学教育現場でもオンライン授業の制限がなされた。学生よりパソコン機器等の長時間使用が原因とも考えられる体調不良の訴えが多く見受けられる。これは、体感覚や皮膚感覚の欠如、Self-Awareness(自己認識)の欠落とも関係づけられる。ソマティックの一分野であるボディ・マインド・センタリング®は、身体接触を通じて心身理解を誘う手法である。非対面・非接触の社会ルールの中で Self-Awareness を育む筆者の実践例について述べる。



古川彩香：英国ダンス・ムーブメント・サイコセラピー協会認定セラピスト、Body-Mind Centering®認定ソマティック・ムーブメント教育者。八王子保育専門学校専任講師。造形大学非常勤講師。身体を通じた非言語コミュニケーション及び心身統合が研究テーマ。

えっ?! 来週から Telehealth?!

ワシントン州バンクーバー市にある児童カウンセリングセンターで働く中、3月半ばにある日突然 COVID-19 のため地域の学校が全て閉鎖になり、同じタイミングで当センターも急ぎょ telehealth に切り替えることに。幅広いクライアントのニーズや日本では経験したことのない様々な社会問題や考え方に戸惑いながら自分なりに必死に対応。現在も模索中ですが、これまでの telehealth 体験を共有させていただきます。



辻ロビン：MA, ATR, LPC, CMHS。現在 Child & Family Therapist/アートセラピストとして米国ワシントン州の児童カウンセリングセンターで活動中。アートセラピー・カウンセリングの修士を Marylhurst University より取得。

【JCATA 第4回学術大会運営委員会】

神宮京子(特定医療法人群馬会群馬病院、DMT Lab)
高田由利子(札幌大谷大学)
西岡直実(子供とコンテンツの研究所 ミッドポイント・ワークラボ)
チラシ/プログラムデザイン:市川雅美(表現アートスタジオいろいろの木)

【本学会について】

日本クリエイティブ・アーツセラピー学会(JCATA)では、クリエイティブ・アーツセラピーの普及と、CATによる臨床活動の知識や専門技術の向上及び研究、セラピスト同士のサポートやネットワークづくりなどを目指しています。年に一度の学術大会(秋)、研修会(春)、総会&交流会(6月)、年に二回(6月&12月)のニュースレター発行、メルマガ発行などが活動の中心です。

CATは、諸芸術を治療や支援に意図的に用いる諸芸術療法の総称です。アートセラピー、ダンス/ムーブメントセラピー、ドラマセラピー、ミュージックセラピー、表現アーツセラピーなどがあり、人が本来持つ創造性を生かすことで自己治癒力を高め、より豊かに、そしてより健やかに生きることを目指します。心身の不調やさまざまな障がいの回復、機能の維持や改善、ストレスの緩和や予防、リラクゼーションの促進、モチベーションや生活の質の向上、行動の変容、自己洞察の深化、その他、自尊心や自己肯定感、主体性や柔軟性、創造力や表現力の向上などのために用いられます。CATは誰もが持つ創造性を活かすことにより、性別・年齢・障がいに関わらず、あらゆる対象者の自己成長や自己実現を目指し、医療・福祉・教育・心理・司法・産業の分野で幅広く柔軟に適用されます。

本学会の起源は2006年にさかのぼります。この年の10月7日～9日にかけて、国立オリンピック記念青少年総合センターにてクリエイティブ・アーツセラピー国際会議が開催されました。その後、スタッフ有志らにより、ネットワーク・オブ・クリエイティブ・アーツセラピー(N-CAT)が設立され、主催・共催するイベントを毎年開催してまいりました。そして10年の節目を迎えた2016年9月に、一般社団法人日本クリエイティブ・アーツセラピー学会設立の運びとなりました。

- ✓ クリエイティブ・アーツセラピーやその実践について学びたい
- ✓ クリエイティブ・アーツセラピーを用いたスーパービジョンや、ピアグループに参加したい
- ✓ 海外でのクリエイティブ・アーツセラピーの実践に興味がある
- ✓ 海外のクリエイティブ・アーツセラピーを学び、日本での活動に生かしたい
- ✓ 多職種における互いの専門性を尊重し、相互に協力し学びあいながら、それぞれの活動現場で諸芸術の力を活かす機会を増やしたい
- ✓ 対象者や現場に即した諸芸術の活用について学びたい
- ✓ 諸芸術を用いて活動している人たちとのネットワークを広げたい

このようなご希望やご期待に応えるべく、皆さまと共に研鑽を続けていきたいと願っています。新たに入会を希望される方は学会ホームページ(<http://www.jcata.org/>)から会員種別をご確認の上、申込書と必要書類を入会受付窓口(apply@jcata.org)までメールにてご送付ください。ご不明な点がございましたらお気軽にご相談ください。